

一般質問通告書

多可町議会議員 河崎 一 様

多可町議会議員 日原 茂樹



平成26年 6月 9日

受	午前
領	午後 9時43分

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
学習障害、注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症を持つ子ども達への取組について	教育長

LD (学習障害), ADHD (注意欠陥/多動性障害), 高機能自閉症の児童生徒が毎年増えているといわれています。

文部科学省が平成24年に実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果では、全国の公立小中学校の通常学級に在籍する児童生徒のうち、人とコミュニケーションがうまく取れないなどの発達障がいの可能性のある小中学生が6.5%に上ることが発表されました。全国で推計約60万人に上り、40人学級では1クラスにつき2、3人いるといわれています。

発達障がいの可能性がある児童生徒の割合は平成14年の調査より0.2ポイント増えたとのこと。男子は全体の9.3%、女子は3.6%と報告されています。

知能の遅れを伴わない発達障害として、LD、ADHD、高機能自閉症やアスペルガー症候群などがあります。こうした障害をもつ子どもたちは、知能に遅れはないために、日常生活や学習の面で困難を抱えていても、障害とは気づかれにくく、必要なサポートを受けることができずに困っていることがあります。

また、育て方に問題があるとの誤解を受けやすく、保護者の方がつらい思いをすることもかなりあるようです。こうした子どもたちは、わざと問題を起こしているわけでも、本人の努力が足りないわけでもありません。一人ひとりの発達特性を理解し、正しくサポートすることで、困っている点を改善していくことができるといわれています。

多可町としては発達障害を持った子どもたちの状況をどのように把握し、取組がなされているのでしょうか。

各小中学校の中で先生方の指導体制や保護者の方への説明やサポート体制はどのようにされているのでしょうか。

教育長の見解を伺います。